

2020年(令和2年)2月7日 金曜日

情報、感想をお寄せください  
miljan@sannichi-ybs.co.jp

## 大学

県内の大学生がさまざまなプロジェクトに取り組んでいる。答えが一つでない課題に対して、どんなアイデアを出し、行動していくか。このようなプロセスを取り入れた形式の授業などが増えている。学生たちは何を得る? 三つの実践例を紹介する。

### 都留文大・川や森の再生 「現場」で信頼関係築く

都留文科大には、実際に「現場」を体験する人気講義がある。座学で知識を得るだけでなく、川の環境維持や森の再生などを体験することで、知識に加え、行動力や判断力、チームワーク、段取りの大切さなど、実社会で必要な能力を培っている。

本年度後期の「地域環境計画実習」に参加したのは文学部社会学科の3年生約20人。静岡県三島市で28年にわたって環境再生活動を続けるNPO法人「グラウンドワーク三島」の

協力を得て、市内の河川などでほぼ毎週末、計8回の実習が行われた。

松毛川河畔では森林再生を目的に、数回に分けて延べ約1200平方㍍で竹の伐採を行った。かつては燃料に使われていたという竹は、切ると油がにじみ出るため1本ずつノコギリで伐採し運び出してチップに。植生に合った木を選び植樹したり、川の中に入れて外来種の駆除を行ったりもした。

参加した渡辺和恵さんは、「竹を

# 課題に挑んで コミュ力アップ

切ったり、生け垣を作ったり、普通の生活なら不要な知識。でも、いつか必ず役に立つ。座学よりはるかに学びは多い」と強調する。

飯野寛大さんは「『何やってるんだ』と不審な目を向ける地元の人もいる。その気持ちも分かるから、地元の人たちどうまくコミュニケーションを図り、信頼関係を築きながら環境再生をする。土台づくりが、いかに重要な感じた」と語る。

雨の日も風の日も川で転んでも、一度始めたら終わるまで続く作業だが、学生たちは「全然嫌じゃない」と振り返る。川上晴輝さんは「それに、他の授業では学べないから、他の学生と差がつくんですよ」と笑顔で語った。

〈手塚美菜子〉



生い茂った竹はノコギリを使って手作業で伐採、運び出してチップにする

—静岡県三島市内